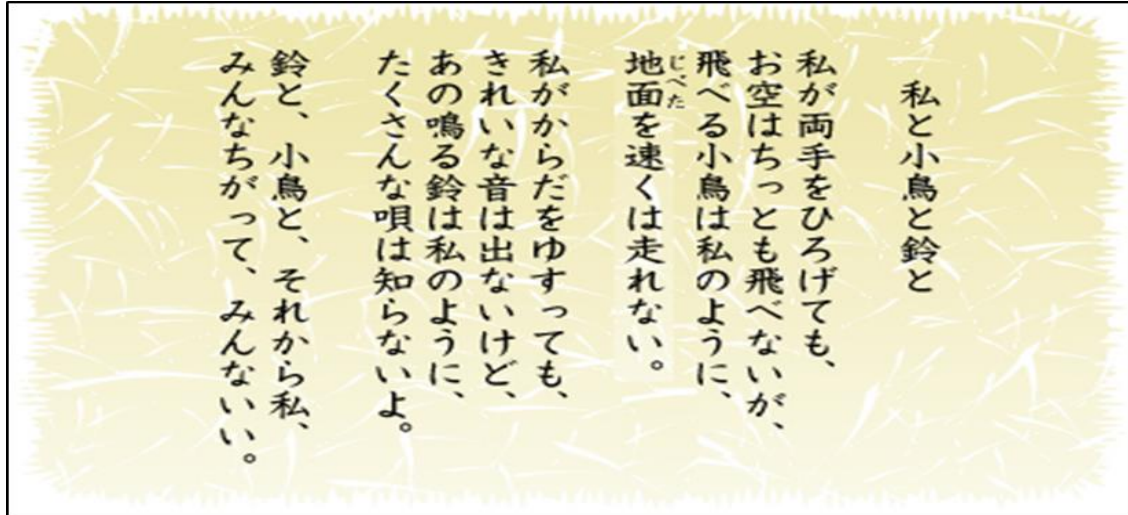




みんなちがって、みんないい。



この詩を読んで、「あっ、これ知ってる」と懐かしく感じている小津中生の皆さんも多いと思います。小学校3年生国語の教科書でも扱っている、大正時代の詩人【金子みすゞ】の代表作です。

私と小鳥と鈴と、それぞれ得意や不得意はあります。出来る、出来ないは人それぞれ。趣味や嗜好も違います。誰もが体験の中で知っていることですね。その違いを認めあって、尊敬しあって、喜びを共有することができることこそ人間の素晴らしさでしょう。

しかし現実には、自分是可以するから、自分と違うからと、相手を責めたり共感できないことも起こります。残念ながら、その結果、争いや暴力、いじめ、戦争など・・・衝突が起こります。

学校にはいろいろな子どもが学んでいます。4月から全面実施された中学校学習指導要領には、学校は多様な価値観を持つ人と協働する人を育てる旨の文言があります。

小津中学校の477人、それぞれ、一人ひとり違います。それぞれの個性を伸ばし、我慢せず、伸び伸びとした子どもに成長してほしいと願っています。そして、お互いの違いを認め合い、尊重し合いながらそこから刺激を受けて、自分の在り方についてもさらに深く考えてほしいと思っています。

小津中学校区の「めざす学校像」である『みんなが安心 みんなで創る あなたが輝く学校』を実現するための重点取組のひとつとして「仲間づくり」をあげています。誰もが異なることを前提としたうえですべての子どもの多様なニーズに応える教育を推進するという一方で、インクルーシブ教育も含まれます。

引っ込み思案な生徒、書くのが苦手な生徒、外国から来た生徒、障害をもった生徒、親から虐待を受けている生徒など、子どもにはさまざまな特性や得意不得意、抱えている問題があり、そうした多様性を互いに認めたくて学び合う教育を推進します。そして、学校は様々な行事や取り組み、また日々の授業を通して、子どもたちが他者を理解し認め合い、みんな仲良く健全に成長できるよう、実践していきます。同時に、学校のルールや決まり事なども生徒が主体となって作りあげ、授業も含めたすべての教育活動が、出来る限り子どもの持つ多様性に応えることができるよう、見直しを進めています。